

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年4月24日

提出区分	実績	整理番号	4	課題区分	C		
横断的な課題	地域の特色を生かした山岳観光地域づくりの推進						
地域重点政策	2 観光誘客や移住者増加につながる地域の魅力を高め、発信する				北アルプス地域振興局		
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属	企画振興課	
事業名	北アルプスサイクルツーリズム推進事業				電話	0261-23-6501	
					E-mail	kitachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	北アルプス地域における自転車走行の魅力を広く全国へ発信することにより、サイクルツーリズムの取組をより加速するとともに、北アルプス地域への来訪者の増加を図る契機とする。					
	現状と課題	・当地域の観光客数は年間700万人前後を維持してきたが、新型コロナウイルス感染拡大以降大きな打撃を受けており、特にグリーンシーズンの観光需要喚起が課題である。 ・サイクリングは、地形や自然景観など当地域の特性と親和性の高いグリーンシーズンのアクティビティであり、様々な場面を通じて情報発信することが重要。 ・R4年度、自転車×旅の情報を扱う専門サイトに当地域の走行体験記事を掲載したところ、多数の閲覧を確認できたが、単独のコンテンツではPR効果が弱いため、コンテンツの充実を図り、情報発信を継続的に推進する必要がある。 ・R4年3月に視察参加したサイクルモード大阪は、スポーツサイクルに関心が高い層を中心に1万3千人を超える来場があり、各ブースが大変賑わった。R5年度は当局も出展に加わるなど、情報発信の強化が必要。					
	内容 (変更後の内容)	○北アルプス地域におけるサイクリングの魅力発信 北アルプス地域5市町村を巡る「北アルプス地域サイクリングモデルコース」を体験・紹介する記事及び動画を作成し、自転車関連記事を専門に扱うウェブサイトに掲載して情報発信する。 ・R4年度は全長140kmルートの東側半周を秋バージョンとして取材・記事化した。R5年度は西側半周を春バージョンとして取材・記事化し、あわせて動画を作成する。 ・サイクリスト向けの訴求力のあるコンテンツ作成が可能 ・動画はHP掲載のほか、各種イベント等でも地域のPRに使用可能 ○広域連携によるサイクルツーリズムの推進 北陸新幹線の敦賀延伸を見据え、新潟県糸魚川地域振興局ほか関係機関とともに、信越エリア連携で主に関西圏を対象に推進する。 ・「サイクルモード大阪」に共同で出展し、PRを行う。(3月2日(土)～3日(日) 9:30～17:00、万博記念公園)					
事業期間	令和5年4月			～	令和6年3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画(実績)額	備考		
	北アルプス地域におけるサイクリングの魅力発信	体験記事及び動画の作成とウェブサイト掲載		715,000			
	広域連携によるサイクルツーリズムの推進	サイクルイベントへの出展		458,638			
	合計				1,173,638		
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	体験記事ページ閲覧数(公開後、年度末までの月平均)			500回/月	866回/月	● 達成	
	動画閲覧再生数(R5年度計)			3,000回	7,153回	○ 一部達成	
	サイクルイベントでのアンケート回答者数			150名	262名	○ 未達成	
事業実績・成果	○北アルプス地域におけるサイクリングの魅力発信 「北アルプス地域サイクリングモデルコース」を体験・紹介する記事及び動画を作成し、情報発信した。全長140kmと長いルートのため、2区間に分け、それぞれ春と秋の風景を紹介している。記事、動画とも多くの方に閲覧していただくことができた。 ○広域連携によるサイクルツーリズムの推進 信越自然郷(北信地域振興局、飯山市等)、久比岐自転車道(新潟県糸魚川地域振興局、上越地域振興局)と連携し、サイクルモード大阪2024に出展した。3エリア共同企画のスタンプラリー等の工夫が奏功し、想定を超えるブース立寄りがあり、関西圏在住者へ向けた当エリアのPRができたほか、多数のアンケート回答を得ることができた。						
今後の方向性	作成した動画等のツールを活用してPRを図っていく。 サイクルイベントで行ったアンケートの回答から得られた情報を今後の施策に反映していく。 引き続き、広域連携によりサイクルイベント等の機会を活用して広く魅力を発信していく。						